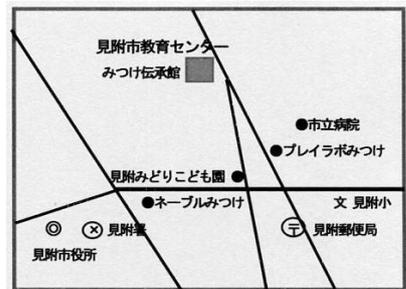


見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話 / Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和 6 年 6 月 2 4 日 NO.3

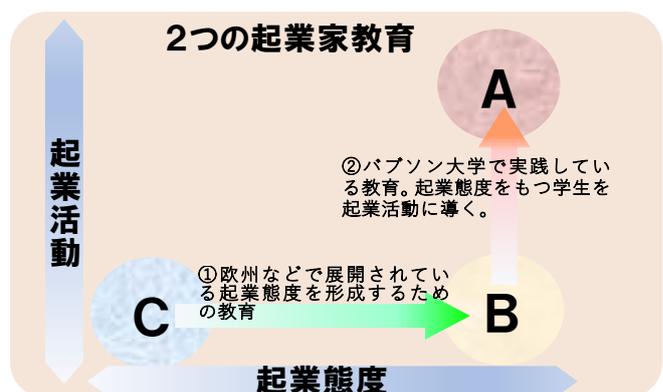
今町小学校 : 6 月 4 日

6 年生による「プール清掃」

みつけ Job チャレ教育 ～「活動」の支援か「態度」の形成か～

学校教育課
課長補佐 宮田 雅仁

起業家教育について、武蔵大学 学長 高橋徳行氏は、次のように述べています。「起業家として必要な知識や能力が、リーダーシップ、創造力、全体的にもものを見る力、リスクコントロール力、そして忍耐強さであるとすれば、それは起業家になる、ならないに関わらず、変化の激しい現代社会に求められる力である。～中略～ わが国でより必要とされているのは、起業態度に働きかける起業家教育（図で言えばC地点からB地点への移行）であるということを示したい。わが国の起業活動は、他の先進国に比べ低迷を続けているが、その大きな原因の一つは、起業態度を有しない割合が圧倒的に多いことである。～中略～ わが国では起業態度「あり」のグループにおける起業活動はG 7（カナダ除き）の中で最も高くなり、米国をも上回っている。～中略～ 起業態度に働きかける教育が最も効果を発揮する可能性を秘めた国が日本であるということがわかる。」



起業家教育は様々な形で研究されており、名古屋市立大学大学院経済学研究科教授 犬飼宏成氏は、大学生向けに図のC地点からA地点へ移行のための教育プログラム、3つ目の起業家教育を開発しています。

みつけ Job チャレ教育では、起業態度の形成を促す起業家教育（C地点からB地点への移行を中心に）を実践していき、子どもの起業家精神や起業家的資質・能力を育てていきます。各学校におかれましては、地域や企業とより一層連携し、子どもの起業家精神や起業家的資質・能力の育みの支援をお願いします。

引用文献：高橋徳行（2014）『起業家教育のスペクトラムー「活動」の支援か「態度」の形成かー』ビジネススクリエーター研究学会、97-112.

巻頭写真に寄せ ー待ちに待った「プールの季節」がやってきたー

◇梅雨入りが遅く6月の初めから30度を超える暑い日が続いた。そんな中、今町小学校の「師がく」が、6月4日から始まった。授業参観が主であるが、子どもたち、先生方の学校生活を丸ごと見せていただき、授業づくりの手伝いができればとの思いがある。

◇給食時に、低学年から様子を見せていただき、6年生の教室まで行った時には給食は終わり、子どもたちは着替えをしていた。「何かするの?」と尋ねると、プール清掃とのこと。「こういう活動が一番、子どもたちの姿が見える」と嬉しくなり、清掃について行った。一年間、お休みをしていたプールは藻がはったり、砂や落ち葉が入ったりして、かなり汚れがたまっているものだ。◇6年生と担任の先生方だけで清掃ができるのかと思ったが、今町小のプールは屋上にあり、予想したほどは汚れていない。それでも大変だろうと思ったが…、子どもたちは、プールサイドから始まり、低学年用プール、普通プールと一生懸命に清掃をした。さらに、1組担任のI先生は、子ども10人力(水しぶきで磨く人)で、デッキブラシをかけていた。(巻頭写真)そして、2組担任のN先生は「私、プール清掃が大好き。」と言うと、子どもたちが磨いても落ちない汚れを、高圧洗浄機で、きれいにしていた。

今、学校に伺うと、プール授業に向かう子どもたちの表情は、実に楽しそうだ。



コラム 『良い授業』は、教師と子どもたちの共同で生まれる

◇楽しみに待っていた「師がく訪問」が5月30日(木)の名木野小学校から始まった。私は教師(授業者)と授業づくりと一緒に学べる、この師がくの訪問が、何よりも好きである。子どもたちが真剣に学ぶ授業を見せていただくとき、たまらない喜びを感じる。

◇良い授業が生まれるには、授業者の深い教材研究があり、指導技術を持ち、その前提に高い学級経営力があるのは言うまでもない。そんな授業には緊張感がある。緊張感が生まれる授業づくりの手助けができればと思う。私の考える良い授業について名木野小のF教諭の5年算数「平均」、今町小のS教諭の2年国語「名前を見てちょうだい」の授業写真で説明をしたい。子どもへの寄り添い方の教師の立ち位置や目線。困っている子どもに向き合い同じ目線で。班学習の時も同じ。子どもたちの中に入って一緒に。指示や説明は、指差し等で分かり易く。そして、常に包み込むまなざしと笑顔を持って授業をする。良い授業は、教師(授業者)と子どもたちが共に作り上げるものである。

◇また、二人のような優れた教師(授業者)の授業を参観することは力を付ける一番である。若い先生方には、右写真の赤丸印の先生のように、ぜひ、身近な優れた先生の授業に学んでほしいものである。(こ)

横写真4枚 名木野小5年F教諭：算数 下写真5枚 今町小2年S教諭：国語



4時から夢塾 「夢・希望・展開に繋がることを語り・伝えたい」

第1回「4時から夢塾」を5月23日(木)、新潟大学教職大学院の宮菌衛先生から「カリキュラム・マネジメントするとは？」の演題で、指導を頂いた。ポイントを簡単に紹介する。

◎細かな資料、データを手掛りに「カリキュラム・マネジメントすること」を考える。⇒ 営みを4つの具体的に即して考えてみる。



宮菌 衛 先生

1. 財産としての授業研究の歴史がある

これまでの日本の長い授業研究の歴史の中で、私たちはPDCAサイクルの方法や考え方を経験し、財産として受け継いできている。自信を持ってそれを活かしたい。

2. カリキュラム構想・開発の知的創造的な経験の蓄積・財産がある

平成の時代には、学校教育こそが「変化の激しい」環境を経験した。大変厳しい状況にあったかもしれない。一方で、その状況の中で、一人一人の教師は学校でチームを組んで、新たな教科や「総合」のカリキュラム開発に取り組んだ実績がある。

その世代が、これからのカリキュラム・マネジメントを通して、学校の未来をより豊かに創造する、牽引役となることを期待したい。

3. 子どもが主体となる学校、多様な主体が協働する学校の創造(継承・発展・変革)がある

今求められている校長をリーダーとする「カリキュラム・マネジメント」の実際の取組の中に、教育目標の具現化・実現のために、地域と共に教育活動を継承・発展・変革させるリレーとしての動的な取組がある。また、カリキュラムは教員だけが創るものではなく、子どもや地域の人と共有するものになりつつある。



4. 特色ある学校づくりのヒントを地方に学ぶ

⇒ 学校づくりに参画する中から学ぶ

少子高齢化で人口減少していく中で、地域と共に学校の文化や伝統の継承・発展。そして、新たな持続可能で多様性のある文化や伝統の創造・革新の活動への参画。その可能性を探りたい。



⇒ 地域間ネットワークの創造へ (これが私(宮菌)の「夢・希望」である。)



<参加者の声> ・教科横断的な視点で見直しをして、学ぶ目的や価値を子どもにも、教職員にも明確にして、教育活動を展開していく必要があると感じた。

・宮菌先生の問題意識、それに対する考えがストーリーとして伝わり勉強になった。

・子ども、地域、教員も楽しめる中・長期的なカリキュラムを作成できたら素敵だ。

・カリキュラムは一から作るのではなく、今までやってきたことを生かして、現在の自分たちの目指す姿を実現する、新しいものを作ることが大切だと思った。

・PDCAサイクルの継続・発展・変革のリレーである話は今後の考え方の参考になった。

4時から夢塾「知的好奇心をくすぐるのは理科の醍醐味」

第2回「4時から夢塾」を5月31日(金)、県立教育センター指導主事の須貝哲二先生から『感覚の不思議～脳が生み出す空想世界～』の演題で、指導を頂いた。(要約すると)受講者が理解し易いように、須貝先生自身のことや身近なことを話題にしながら、視覚を通して難解な脳の働きを医学的に教えて頂いた。



須貝 哲二 先生

1. 今、あなたが見ているその世界は、ホントにありますか？

- ・確かに目の前にあるものだと、無意識に思っていないですか？
 - ・ご存じですか？ 盲斑…視神経の通り道で視と細胞がない。
 - ・盲斑実験…左目を閉じて+を見る。前後させる○が消える。
 - ・光を受容していない部分の映像を脳が勝手に作り上げている。
- あなたが感じているすべては、脳が作り上げた空想の世界。



盲斑実験

2. ヒトは各受容器で刺激を受容し、感覚神経を通じて情報を伝え大脳で感覚を生じる

- ・大脳は部位によって処理する情報が異なる…視覚や聴覚の中枢。随意運動の中枢。記憶・思考・意思などの精神活動の中枢。言語(理解と発声は別の部位)の中枢。
- ・それぞれで処理した情報を統合する…「リンゴの落下」で考える。視覚情報(光)→動き・位置の確認(目の前、落下…)色・形の確認(赤、丸い)→前頭連合野で統合。

3. 感覚の不思議を体感してみるⅠ「視細胞(光を受容する細胞)の違い」

- ・青緑赤の3色で、視覚の中心以外は色の区別ができない確認する。
- ・各錐体細胞の光の吸収量により、脳が色の判断をする。
- ・赤・緑・青は光の三原色⇒すべて入ると「白」と脳が判断する。



4. 感覚の不思議を体感してみるⅡ「痛点の分布の違い」

- ・指先；感覚細胞が密集　・手の甲；感覚細胞はまばら

5. 感覚の不思議を体感してみるⅢ「現実とのギャップを楽しむ」

- ・イリュージョンフォーラム…錯視、錯聴、そして錯触も。



6. 記憶について

- ・記憶はプライミング記憶　手続き記憶　短期記憶　エピソード記憶　意味記憶等
- ・感情や気持ちが入る　知っていることと関連する ⇒ 強い記憶になる。

○へえ～ すごい　どうなってるの？ ⇒ 知的好奇心をくすぐるのは理科の醍醐味！



<参加者の声>

- ・非常に面白く、引き込まれる講座だった。学びを今後に生かしたい。
- ・統合失調症の話は興味深い。脳が色んなことを勝手に作り上げていることに驚いた。
- ・色が見えていないことを初めて知った。目のつくりの学習で、楽しめそうで嬉しい。
- ・私自身のものの見方、子どもたちへの見方(接し方)も見つめ直したいと思った。
- ・今まで見えている世界が、空想だという認識で見たことがなかった。まさに“ものの見方が変わった”瞬間になった。理科の醍醐味を体感でき、とても楽しい時間だった。
- ・今日は最近受けた研修の中で、ピカイチで感動した。まずは今晚、家族に実験したい。

6月

科学教育部



《今月の1枚》

オクラの芽生え(葛巻)3本ありますよ

単元別研修会から

「小3～6 天体を学ぶ」の単元別研修会を6月6日(木)に教育センター実験室で行いました。その中に、3年生の「かげと太陽」の内容が含まれます。ドローンによる空撮画像を授業に取り入れることで、校舎の影の時間変化を確認することができます。

6月から9月の主な天文現象を紹介します。

| 月日 | 主な天文現象 | 備考 |
|-----------|---------------|---|
| 6月21日 | 夏至 | 太陽黄経90度 |
| 6月27日～29日 | 月が土星に接近 | 真夜中の南東の空で月が土星に接近します。月に負けず光を放つ土星を見ることができます。 |
| 7月25日 | 土星食 | 小笠原諸島を除く全国で昼間に起こります。 |
| 7月31日 | みずがめ座δ南流星群が極大 | 1時間に5個程度の流星を見ることができます。月の条件が良いようです。 |
| 8月10日 | スピカ食 | 伝統的七夕の日でもある8月10日の夕刻、おとめ座の1等星スピカが月に隠される「スピカ食」が起こります。 |
| 8月12日 | ペルセウス座流星群が極大 | 見ごろは12日深夜から13日未明。1時間に40個ほどの流星を見ることができます。月の条件が良いようです。 |
| 8月20日～21日 | 満月の頃、月と土星が近づく | 8月20日は満月です。この20日夜から21日夜にかけて、月が土星と接近します。ほぼ一晩中、月が土星の近くで輝いている様子を観察できます。 |
| 9月8日 | 土星が衝 | 環(わ)のある惑星として人気のある土星が、「衝(しょう)」となり、観望の好機を迎えます。衝とは、太陽系の天体が地球から見て太陽とちょうど反対側になる瞬間のことです。一晩中見ることができます。 |
| 9月17日 | 中秋の名月(十五夜) | ここ数年、中秋の名月と満月は同じ日でしたが、今年は9月17日が中秋の名月、翌18日が満月と日付が1日ずれています。 |

要請研修会も受け付けております～こんなときに活用してください～

- 研修会に参加したいけれど日程の都合がつかない。
- 理科を初めてもしくは、経験がない学年で不安がある。
- 実験の方法がわからない、予備実験でうまくいかない。

教育センター 科学教育部 担当:早田・長谷
TEL・FAX 62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

C4thの個人連絡

「教育委員会 教育センター」

科学の公園

第6回科学の甲子園ジュニア県大会について

「科学の甲子園ジュニア」は、高校生を対象に開催されている「科学の甲子園」の中学生版です。

理科、数学などの課題に、チームで挑戦する競技を通して、科学の面白さ、学ぶことの楽しさを感じてほしいと願い、大会が設けられました。

「仲間と思い出をつくりたい。理科・数学が大好き、今の自分の実力を試してみたい。全国大会に出場して全国の強豪チームと競ってみたい。」と、思っている生徒に参加を促してください。各中学校に案内がメールで届いていますので、詳しくは案内をご覧ください。概要を掲載します。



科学の甲子園ジュニア
マスコットキャラクター
アッピン

<新潟県大会について>

県内の中学校等に在籍する1・2年生3人1組で構成したチームで、「筆記競技」を行います。「筆記競技」の結果より、上位10～15チームが選出されます。選出されたチームで、「実技競技」を行います。

○ 応募方法 3人1組のチームを作り、在籍する学校の先生を通して、下の連絡先へ応募してください。

必ず学校行事予定を確認の上、令和6年7月5日（金）までに応募してください。

○ 選考方法 <筆記競技の部>

- ・ 応募したチームの学校に、「筆記競技」の課題を送ります。（7月中旬予定）
- ・ 各学校において課題にチームで取り組み、解答用紙を事務局に提出します。

実施期間：令和6年7月下旬～令和6年8月9日（金）

提出締切：令和6年8月19日（月）必着

・ 「筆記競技」の結果より上位10～15チームほどを選出し、「実技競技」への出場権を与えます。

<実技競技の部>

期日：令和6年9月21日（土）午後 場所：県立自然科学館

- ・ 与えられた実技競技の課題に、チームで取り組みます。
- ・ 「筆記競技」の点数と「実技競技」を合わせた点数で、優勝・準優勝チームを決め、優勝・準優勝チームを全国大会出場チームとします。
- ・ 参加費は無料です。選手及び引率教員の交通費は、県が負担します。

<全国大会について>

- 主催共催 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、兵庫県、兵庫県教育委員会、姫路市
- 開催期日 令和6年12月13日（金）～15日（日）
- 開催場所 アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）
- 競技内容 詳しくは、「科学の甲子園ジュニア」のホームページを御覧ください。
- 競技形式 筆記競技は6人1チーム、実技競技は3人1チームで、課題を分担、解答を相談するなど、チームで協力して課題を解決し、競い合います。
- 参加費用 参加費は無料です。出場チームの選手及び引率教員の全国大会会場までの往復交通費と宿泊費等は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が負担します。